



新生兵庫友の会

発行:新生兵庫友の会
〒650-0023
神戸市中央区栄町通
4-2-18 キンキビルデ
ィング5階
TEL:(078)362-1700
FAX:(078)362-1706

きずな No. 80

平成20年11月25日(火)

ホームページ <http://www.idotoshi.net> Eメール ido@idotoshi.net

【新一步いっぽ続々】から

はじめに

兵庫県知事 井戸 敏三

不安な時代になる懸念が増してきている。アメリカのサブプライムローンに端を発した住宅金融問題がリーマンブラザーズの破綻など証券各社のみならず各銀行取引に支障を生じ、銀行取引への資金提供、銀行への資本注入など、世界的な金融対策をとらざるを得ない危機となった。そのうえに、金融危機が実物経済に影響を与え始めた。銀行が企業に融資する余裕がなくなり、このことがじわじわ企業活動に影響を与えつつある。

一方、食の安全安心をめぐる事件が続出している。残留農薬入り餃子やインゲン、事故米の流通など想像を超える事件が起こっている。

また、年金をめぐる不正事案、特に基準報酬を減額する操作など考えられない役所への不信や後期高齢者医療制度をめぐる混乱、介護保険料の上昇など、年金、医療、福祉をめぐる制度不安定が将来への信頼を揺るがしている。

このような時代だからこそ、せめて兵庫だけはしっかりと地に足を着けた安心感のある県政推進が求められているはずである。幸い新行革プランも県議会の議決を経て、策定され実行の段階に達した。

すでに、平成二十年度予算の編成は当時としては日本一の縮減率、一兆九千八百億円弱の規模とした。職員給与の給料月額比八%の抑制をはじめ、事務事業や投資水準など見直しを行ったからである。これから十年間の行財政運営の基本枠組みが構築された。しかも、行財政構造改革の推進に関する条例も制定され、新行革プランの具体化と推進、そのフォローアップの仕組みも作られた。

私の任期も、九ヶ月ばかりとなった。このような兵庫の状況を踏まえ、兵庫県政の誤りなきを期していかなければならない。残された期間であるからこそ、懸命の努力を尽くさねばならない。

第一は、当面の経済対策を適切に推進しなくてはならない。国の経済対策に呼応した県としての対応はもとより兵庫独自の対策として、消費者相談や調査の強化、生活資金の充実などの生活安定、中小企業の資金繰りや設備投資促進の金融対策、原材料高騰等への事業推進対策など、県としての対策をきちんととることである。

第二は、新行革プランを的確にスタートさせ、今後十年の県政推進の基盤を確立することである。平成二十一年度予算編成作業も始まった。不安の時代だからこそこれに立ち向かう姿勢を確立しなくてはならない。

第三は、21世紀長期ビジョン「美しい兵庫21」は県民の参画と協働により手作りで2000年につくられたものであるが、その目標年度は2015年とされていた。今年は2008年、ちょうど中間年を経過したことになる。変化の激しい時代だからこそ、また人口減少社会、しかも少子化、高齢化、地域的な偏在が同時進行する新たな事態を踏まえて、もう一度県民ぐるみの参画と協働による21世紀兵庫ビジョンを見直し検討を行い、基本方向を明確にしていかなければならない。

これからも全力投球、全力疾走していくことを決意している。どうぞよろしくご指導願います。

これからの 変化にひるまず 進まんと
豊かな兵庫 充実めざし

.....

秋の叙勲

藤本氏ら8氏が晴れの受章

恒例の秋の叙勲で、新生兵庫友の会会員のうち藤本和弘氏ら8名の方々が、受章の栄に浴されました。晴れの受章者は次のとおり。

＜平成20年秋の叙勲受章者＞
 瑞宝中綬章 藤本 和弘
 瑞宝小綬章 浅江 季典
 瑞宝小綬章 阿部 敏之
 瑞宝小綬章 来馬 章雄
 瑞宝小綬章 近藤 靖宏
 瑞宝小綬章 佐々木義泰
 瑞宝小綬章 畑尾 卓郎
 瑞宝小綬章 安田 茂弘
 (敬称略)

叙勲祝賀会の開催についてご案内

本年春と秋の叙勲で受章された本会会員14名の方々について、会員有志が相寄り、春・秋合同の祝賀会を下記により開催いたします。何かとご多忙のこととは存じますが、多数ご出席賜りますようご案内申し上げます。

叙 勲 祝 賀 会

- ・と き 12月13日(土) 午前11時から
- ・と ころ 神戸ポートピアホテル・本館偕楽の間
Tel 078-302-1111
- ・会 費 10,000円
(記念品料3,000円を含む)
当日受付で頂きます。
欠席の方で記念品料参加の方は、郵便振替で事務局あてご送金ください。
- ・春の受章者はつぎのとおり。(敬称略)
釜本 貞男 畑中 陽次 藤澤 福男
本多 忠博 水田 幸男 吉房 節

自 句 自 解

(神戸市) 佐藤源太郎

幽玄のみどり仄かに蛍とぶ

想えば、その人生の大半を過ごした県庁を去り、第二の職場での主催である文化事業で、奇しくも俳句教室をお世話することになったのが、俳句との最初の出会いとなった。

教室の主宰は、雲母同人・倉橋弘躬先生、句友は十数人何もかも初めての体験、戸惑う事ばかりだった。そんな時、最初に先生から戴いた特選句である。

平成三年の五月から始めて、翌六月の句会の時である。正に私にとって、晴天の霹靂とはこの事であろう。産土でもある但馬の、とある山郷にある「ほたるの里」に、ある初夏の一日を妻と訪ねた時の句。俳句のはの字も知らなかった小生に、いま思えば師からひそかに、この道への誠に心優しい、いざないを戴いたものと思える忘れ得ぬ句である。

秋草や直哉の寓居畳古り

“海が見えた、海が見える。五年振りに見る尾道の海はなつかしい”林芙美子「放浪記」で知られる、古寺と文学の町尾道。町からも海からも見えるこの町のシンボル、千光寺から坂道を下りると、志賀直哉が「暗夜行路」を執筆した旧居に出る。主人公時任謙作が住んでいたと言う、三軒の小さい棟割り長屋の一番奥、その中に描かれたように、石垣の坂道の下に海が見える。

千光寺境内の鐘楼の側に、

寒暁に鳴る指弾せしかの鐘か

の誓子句碑がある。誓子が、ここ尾道の宿でどの様な想いで、この鐘を聞いたのだろうか、何故か惹き付けられる句であり、尾道を訪れるたびに、必ず立ち寄って見る場所となった。折しもの霧に、咽びなくような霧笛を聞きながら、村上水軍で名を馳せた因島が、霧の向こうに、静かに浮かんでいた。

彫り深き露風筆塚苔の花

「夕焼小焼の赤とんぼ」の町、播州・龍野を初夏の一日訪れた。龍野橋を渡り、とある和菓子の老舗に好物を見つけ立ち寄ったところ、ご主人が街の遊歩マップをひろげ、名所旧跡の道順を、赤鉛筆で丁寧に書き込んで下さった。聞けば「嗚呼玉杯に」の矢野勘治が、子供の頃からここの菓子を好んで食べていたとのこと、店には彼の古い書簡なども置いてあった。

三木露風、内海青潮、矢野勘治、三木清の文献、遺品を一堂に集めた霞城館、その昔、松平定信が「聚遠の門」とその眺望絶景を称えた聚遠亭、文学の小径、哲学の小径、童謡の小径等々暫し、世間の憂さと時間の経つのを忘れ、文字通り、至福の時を過ごした。

幾多の作家や詩人、哲学者を輩出したこの町は、今も揖保川の清流に生まれ、江戸時代そのままの城下町が、武家屋敷や町家の白壁にひっそりと息づいていた。

神戸・播磨地域の施設見学同行記

(神戸市) 大和田弥彦

本年度の施設見学同好会は去る9月26日(金)に「走る県民教室」を利用して、①人と防災未来センター「防災未来館」②県立考古博物館③新日鉄・広畑製鉄所を見学した。県民会館前で参加者35名(男24名、女11名、80歳台7名、70歳台17名、60歳台11名)が次々と観光バスに乗り込んだ。

＜人と防災未来センター＞

9時30分到着。深田修司副センター長の出迎えを受けて早速4Fへ。今年1月にリニューアルオープンされた震災追体験フロアでは、平成7年1月17日のあの恐ろしい状況を迫力ある大型映像と音響で体験できた。

また、震災直後の淡路、神戸、西宮、伊丹などの街並みをジオラマ模型でリアルに再現。隣室の大震災ホールでは、復興に至るまでの街や住民の姿をドラマ化して紹介していた。3F、2Fでは、震災の記憶フロアとして、地震直後の現場の実態や復興過程を写真、パネル等で展示。

当日は、高校生たちの見学者が多く見られた。自然災害多発の日本では、全国の中学・高校の修学旅行の見学先として取り入れることが、必要ではないか。「防災未来館」を去るとき、あの日から既に13年経過しているにもかかわらず、多くの命や建物が失われた恐怖を想起させたのだった。激しい雨も上がりHAT神戸の秋空に晴れ間が覗いていた。

＜県立考古博物館＞

11時50分到着。安富学習支援課長さんから館内の説明を受ける。緑豊かな史跡公園「播磨大中国古代の村」に隣接し、昨年10月に開館された。館内には、県内から出土した考古資料を中心の「常設展」と、開館1周年記念事業として「発掘された日本列島2008」と題して、全国4か所で巡回展示されているものを「特別展」として展示。その中で、特に、「高松塚古墳」の石室解体とカビの発生や壁画の劣化など発掘調査の成果を実物大の古墳室等を再現し、解説していた。

「常設展」では、大陸と但馬を往来していた古代船、石棺、明石人骨など復元して、土の中から出土した考古資料をかみ合せ、楽しみながら考古体験をさせる参加型博物館をめざしているとのこと。展示コーナーも充実しているが、見学時間が短かった

ため、十分閲覧できなかつたことが残念であった。

＜昼食 姫路・灘菊＞

姫路城下の酒蔵 灘菊酒造で酒蔵見学と合わせて酒蔵での昼食をとった。ここでは、播州の旬の食材を使い、自家製手作りの料理、特にざる越し豆腐、酒蔵鍋、麦めしとろろは逸品で、高齢者向きの料理でした。部屋の内部は、黒塗りの梁や柱で、まさに酒蔵での料理とぴったりの雰囲気で大満足でした。

＜新日鉄・広畑製鉄所＞

広畑製鉄所は、1937年3月に建設、1939年10月に第一高炉火入れ、その後富士製鉄との合併を経て、1970年3月に新日本製鉄として発足。工場用地は、約600万㎡、建物面積は、約88万㎡で、現在では、薄板製造拠点として活動されている。また、廃棄物の再生処理事業(タイヤガス化リサイクル事情)にも取り組まれている。今回は、鉄鋼製造プロセス 圧延工程(熱延ライン)を見学の予定であったが、砂田、橋本両氏から会議室で施設の概要説明とビデオ視聴の後、約1時間30分かけて工場内をバスで一巡した。広大な施設に驚いた。定刻どおり午後6時にJR三宮に無事到着。来年またお会いできることを楽しみに散会しました。

同好会だより

□俳句同好会

- ・と き 12月 6日(土) 13時～
- ・と ころ 職員会館2階 208号室
- ・兼 題 霜柱・湯豆腐・焚火
- ・その他 欠席の方は佐藤源太郎までご連絡下さい。

□囲碁同好会

- ・と き 12月10日(水) 13時～
- ・と ころ 職員会館2階 207・208号室
- ・参加費 1,000円(当日徴収)
- ・申込み 12月3日(水)迄に同封のハガキで。

□テニス同好会

- ・と き 12月11日(木)
午後3時～5時
(開始時間にご注意下さい)
- ・と ころ 神戸ローンテニス倶楽部
神戸市中央区宮本通1-1-1
Tel: 078-221-2383, 078-291-0809
- ・申込み 078-792-0586の阿部昌夫まで連絡を。

□男の料理教室同好会

- ・と き 12月13日(土) 13時30分～
- ・と ころ 「むぎっこ」Tel 078-333-0628

神戸市中央区下山手通3、シエンビル403号室

・会費 3,000円(当日徴収)

～11月の教室～

- ①天ぷら ②手羽先のオープン焼き
- ③長芋と蓮根のふわふわ焼き ④柿の白あえ
- ⑤そばつゆの作り方 ⑥そば打ちからざるそばまで

□ワイン同好会

- ・とき 12月19日(金) 18時10分～
- ・ところ ワインセラー「ヒラオカ」TEL 341-2563
- ・会費 3,000円
- ・テーマ フランスワイン(日仏交流150周年)
- ・申込みは同封のハガキで。

□写真同好会 ～12月は例会～

- ・とき 12月20日(第3土曜日) 13時～
- ・ところ 職員会館2階 207号室
- ・お願い 作品LL版5点以内持参
- ・追伸 本年度作品展の作品の第一次選定を行いますので、よろしくお願ひ致します。

□麻雀同好会

10月25日(土) 午後1時から例会を元町

「寿利」において25名の参加を得て開催しました。結果は次のとおりでした。

- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 優勝 | 久保 進一 | 準優勝 | 西村 正美 |
| 第3位 | 橋本 嘉睦 | 第4位 | 藤井 昌昭 |
| 第5位 | 森本 繁雄 | BB賞 | 藤田 博 |

会 員 短 信

- 住所変更
- | | |
|--------------------|--------------|
| 朽山 邦宣 (名簿P18 21行目) | 〒707-0401 |
| 岡山県美作市後山890-1 | 0868-78-3559 |
| 福富 佑吉 (名簿P23 22行目) | 〒874-0012 |
| 大分県別府市スパランド豊海32-9 | 0977-67-3228 |

訃 報 謹んでご冥福をお祈りします。

- | | |
|---------|--------------|
| 青谷 進 さん | 11月 1日 (79歳) |
| 天野 昭 さん | 11月19日 (80歳) |

第一五七回 颯 句 会 (平成二十年十一月一日、九名、四十五句)

(兼題) 落葉、返り花、石路の花
選者 盛岡 翠月

天 賞

雨の日は雨の輝き石路の花

中 森 眞 木

(評) 石路(つわ)の花をご存じだろうか。菊科の植物で晩秋の頃草庵等の片隅に黄花をひっそりと咲かせる。目立たぬ花姿だが、雨の日に視点を變えてみればお天気の日には決して見せぬ生き生きと輝く「つわ」を発見する。掲出の句、並みの力では「雨に輝く」としたいところを「雨の輝き」として、つわの新たな美を引き出した。さらに「人も同様ふだん目立たぬ存在の人でもいざ逆境にあうと目を瞞る働きをする」と句外の秘めたるところを読みみたいが、少々深よみだろうか。ともあれ視点を變えれば余情は茫々、つわでさえ輝く。

地 賞

遍路墓今生の石路咲きにけり
但馬路に入りて忽ち時雨けり
つわぶきの花にすがりし命かな

本 下 汀 藻
谷 本 閑 邑
赤 木 しげみち

人 賞

返り花祖父の文箱の古葉巻
友逝きて無想の帰路や返り花
裾紮げ草紐解くる石路の花
花石路や海風に立つ朴齒下駄
時雨るるやぬれるにまかせ僧は行く

佐藤げんたろう
森 田 精 歩
打 越 碧 山
森 仙 游
外 山 公 望

(地賞寸評) 本下氏の句、お遍路さんの墓に寄りそうように咲いた一輪の石路、名もなきまま逝った人と目立たぬつわとの取り合せの妙。谷本氏の句、但馬の郷は時雨の名所、この日も氏の但馬入りと同時に時雨、「やっぱり!」。赤木氏の句、人目をひかぬ石路にまで続いた苦悩と自分の無力さ。事実より真実をということ。人賞の各句は何れも言いたいことが多すぎて、結局主訴がわからない。一点に絞る心がけを。

選 者 吟

求道(ぐどう)には遠き旦暮や返り花
一山の美や繚乱の落葉期